

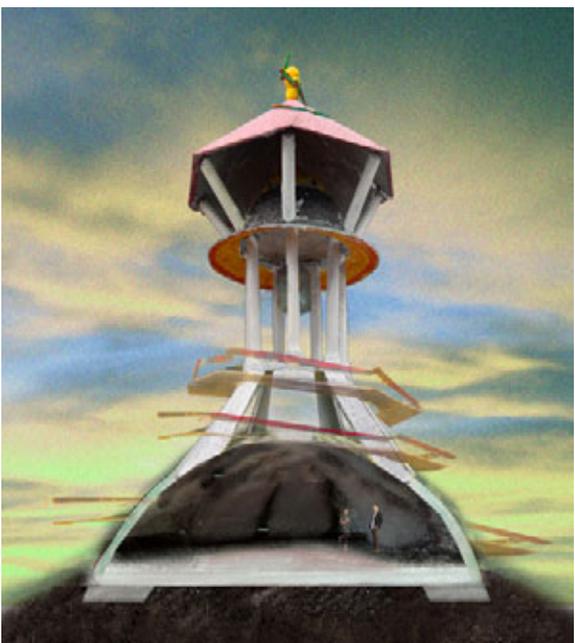
# ベトナム五行山日本寺勧進帳

ベトナム・ダナン精神文化公園内日越交流センター建設、  
はじめりとしての五行山日本寺開山、  
梵鐘鑄造と鐘の鳴る丘造りへの御寄進のお願い

第五次案模型 (2013年7月現在案)



鐘の装飾には、かつて五行山周辺が海であった頃の風景を再現しています。



ベトナム・ダナン精神文化公園内日越交流センター建設、はじまりとしての五行山日本寺開山、梵鐘鑄造と鐘の鳴る丘造りへの御寄進のお願い

日本を取り巻く世界情勢、特にアジアのそれは極めて厳しいモノになりました。我々それぞれの個人の気持の状態も同様な様に考えます。

わたくし共まちづくり支援センター（早稲田大学創造理工学部石山修武研究室事務局）はその困難さに対して、ベトナム・ダナン人民委員会と協同してベトナムに日越交流センターの設立、その第一歩として、ベトナム日本寺を人民委員会構想のダナン精神文化公園内に建立したいと着手いたしました。

五行山はアジア地域の神仙思想発祥の地とも言われます。五行すなわち水金土火木、



そして太陽と月を含む七曜、風水思想を含む広大な生命尊厳への希求の源の一つであります。

南海の観音菩薩の生誕の地でもあり、諸神仏の集まる蓬萊山、浄土補陀落の夢の源でもあります。

この五行山に日本寺を中心とするベトナム日本交流センターを作るのは、ベトナム



日本の被災地へ送っていただいた”激励の布”にメッセージを寄せる、ベトナムの僧侶の方々。

### ダナンの経済発展・将来性について聞く



**マイ ダン ヒュウ氏**  
**MAI DANG HIEU**  
 ダナン人民委員会・ダナン外務局  
 ダナン駐日代表部副代表。ベトナムと日本の架け橋になるべく日々奮闘中。

最後に、日本の方に対するメッセージをお願いします。

私は観光客だけでなく、日本の企業にもどんどんベトナムに入ってきてほしいと考えています。現在、ダナンにおける日本企業の数は87、住んでいるのも、200人ほどしかいません。ぜひ経済面でも、日越の交流を深めていければと思っています。また現在、ダナンのビーチ沿いにある五行山という連山のふもとに、日越交流センターを作る計画が進んでいます。7000平米の土地に、交流センターだけでなく、博物館なども作る予定です。早稲田大学の石山修武教授にも協力していただいています。ぜひ、あなたの力も貸してください。日越の本格的な交流は今から400〜500年前に始まりましたが、これからの交流の歴史を、私と一緒に作っていきましょう。

ダナン人民委員会のヒュウ氏による、ダナン五行山地区の日越交流センター計画に関するコメント（記事転載）



2013年3月、ベトナム・五行山観音祭の様子  
 五行山で行われた観音祭には日本仏教界を代表して真栄寺・馬場昭道和尚が列席し、ダナン仏教界関係者と共に、約3万人の観衆の前で読経されました。



五行山観世音寺のビン住職（写真右）

政府の精神文化公園作りの考え共々、二一世紀の困難さを生きねばならぬ我々のひとつの希望とも言えましょう。日本の近未来の諸産業にとつてもハノイ、ホーチミン両都市の中間部にあるダナン地区は重要なエリアになりましょう。ダナン五行山地区にはベトナム有数の聖観音大寺がすでに在ります。二〇一一年の東日本大震災に際してこの観世音寺は世界で最も早く、東日本被災地に多額の義援金を贈って下さいました。観音菩薩の慈悲の精神として当然の事だとビン住職は申しております。

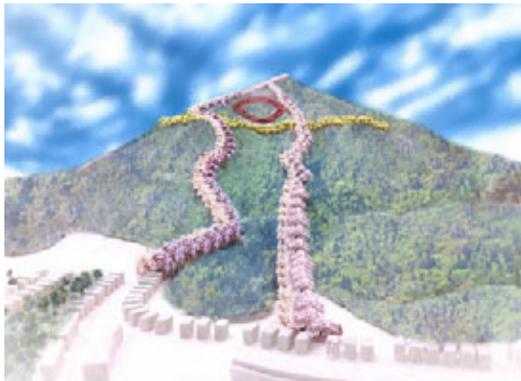
人類に深く共通する不老長寿への願いは生命への尊敬への万民の願いとして共有できるでしょう。

まちづくり支援センターは日本国内に於いては、ともすれば世界をローラーしようともするグローバルイズムの波の狭間に落ちこぼれようとする多くの弱小諸地域の特産品作り、販売の支援を続けて参りました。(※一)

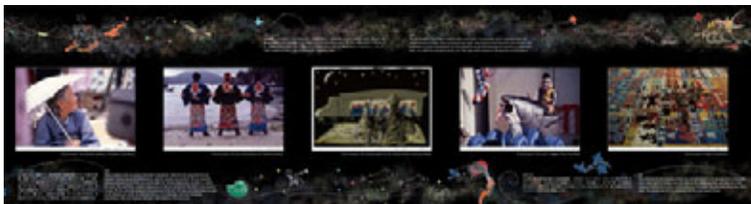
又、国外ではカンボジアの首都プノンペンのカンボジア小乗仏教大本山ウナロム寺院の境内に広島市、広島県と協同して汗をかい作り出す平和センターでもある「ひろしまハウス」を十年がかりで建設しました。(※二)

ネパール、カトマンドウ盆地に於いてもキルティプール・ベースキャンプ作りをトリブバン大学と共に実施してまいりました。(※三)

さらに二〇一一年の東日本大震災に際しては、オリジナルの絵葉書の製作販売を真栄寺と共同で行ない、売り上げ八〇〇万円程を被災地に直接贈呈しました。この活動は今日現在、気仙沼・安波山(あんばさん)鎮魂の森計画、唐桑(からくわ)復興計画として続行しています。(※四)



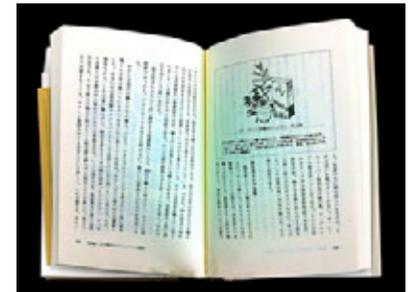
※四 安波山鎮魂の森計画  
建築家の安藤忠雄さんと協同。また、この活動は2011年ドイツ・バウハウス大学、2012年シュツットガルト芸術アカデミーの巡回展に於いて公開されています。



震災後取り組んだ、被災地支援絵葉書プロジェクト。売上は被災地の気仙沼・唐桑の方々へ直接手渡しました。



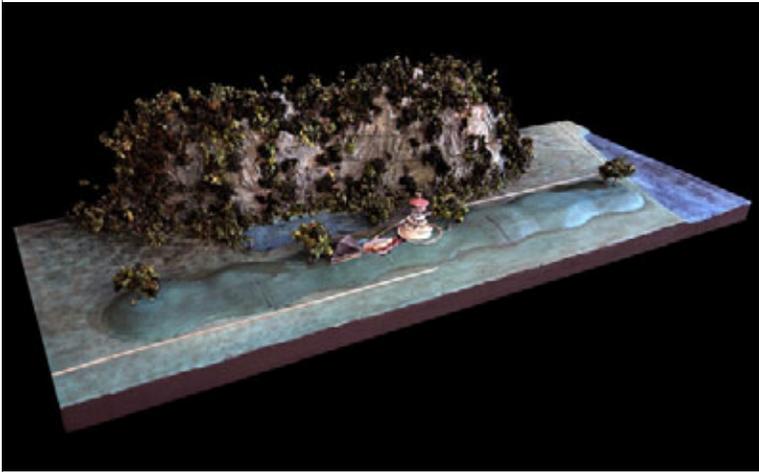
※三 2003年ネパールのキルティプールにて、トリブバン大学と共に、スケッチや実測調査を実施するワークショップを行いました。



※一 まちづくり支援センターの様々な活動は『建築家、突如雑貨商となり至極満足に生きる』(石山修武著、デジタルハリウッド出版局、1999年12月)にまとめられています。



※二 カンボジア・プノンペンに建設されたひろしまハウスは、<被爆>とくポルポト政権による大量虐殺>という悲惨な歴史を共有するカンボジアと広島の人たちの交流拠点となる場所です。世界から建物のレンガ積みのボランティアを募って、約10年かけて2006年に完成しました。



鐘楼が建ち、菩提樹が生い茂る全長 350m の7つの丘のイメージ



铸造する梵鐘のイメージ



鐘楼の完成イメージ

それ等の小さな体験を踏まえながら、ベトナム・ダナン五行山日本寺開山を始めたいと思います。そのはじめの一步として日本寺鐘楼建設、及びその要である梵鐘鑄造を始める所存であります。

近い将来の諸施設、基盤整備建設はベトナム・ダナン市人民委員会の力を得る事になりますが、先ず日本寺の梵鐘、そして鐘楼だけは日本側で建立したいと念じております。どうぞベトナム五行山日本寺の梵鐘鑄造の資金作りに御協力下さいますよう伏してお願いたします。

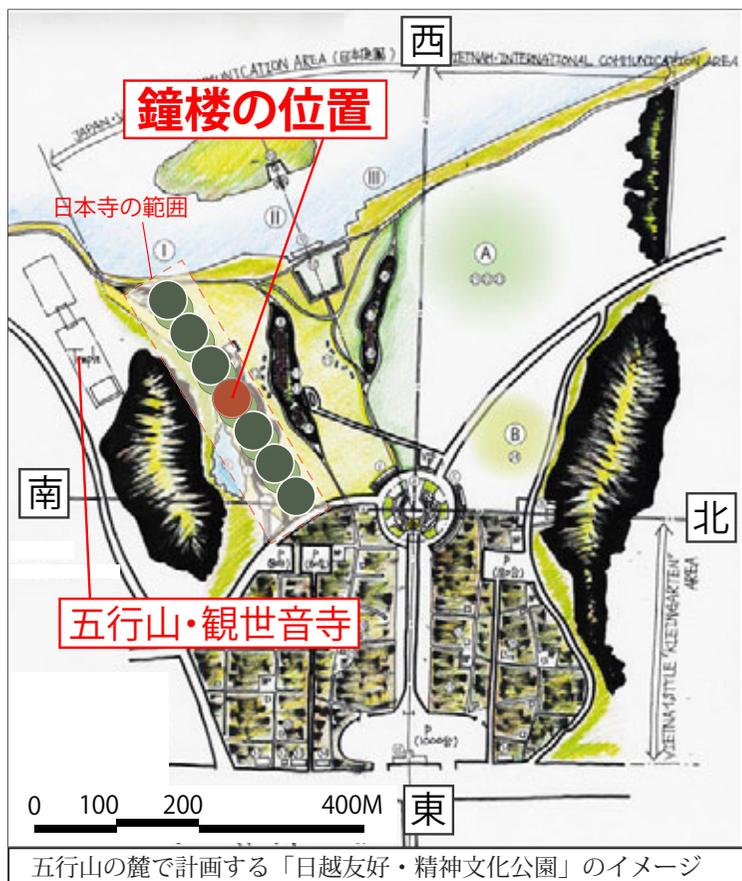
日本円で梵鐘鑄造一二〇〇万円。小ギャラリーを含む鐘楼建設一五〇〇万円を目標としております。

御力をいただきたい。

まちづくり支援センター代表 石山修武

真栄寺住職

馬場昭道



みなさまのお気持ちが込められた梵鐘は山車に乗ってベトナムの五行山へと運ばれます

追い追い御報告を続けますが二〇一三年四月現在、この計画のはじまりとして鐘楼の梵鐘に鑄込む気持の一つとして、日本俳句界の第一人者金子兜太さんの句を鑄込む事に御賛同いただきました。金子兜太さんは太平洋戦争に於いて南方トラック諸島に於いて少なからぬ戦友を失っておられます。それがその後の俳句作りの原点にもなっているのでは（※五）と考え、同じ南の海そして海のシルクロードで日本と結ばれてきたベトナム・ダナン五行山計画への御力をいただきたく事になりました。

これから多くの方々との結縁を願いながらこの計画をすすめて参ります。その経過は御報告いたします。

四月末日 石山修武 記

※五  
金子兜太  
1919年、埼玉県生まれ。俳人。父元春（俳号・伊昔紅）、母はるの長男。東京帝国大学経済学部卒業後、日本銀行入行。44年、主計中尉としてトラック島へ赴任。ここでの戦争体験が基となり、反戦意識を深めていく。46年に復員し、47年、日本銀行に復職。同行に在職中は、従業員組合の事務局長を勤めるなど組合運動にもたずさわる。現代俳句協会名誉会長。



『わたしの骨格「自由人」』（金子兜太著、NHK出版、2012年11月）

補

御寄進は一口五千円とさせていただきます。

個人法人各種団体を問わず上限はありません。

又、御寄進の方には小さな銅板をお送りします。お名前、文字・絵他何でも書いて下さい。釘でひっかいたり、油性ペンや筆をご使用ください。ベトナムでそれを溶かし、铸込んで梵鐘づくりの材料とします。みなさんのお気持が梵鐘となり、やがては音となり、五行山に響きわたる事になります。ちなみに観音とは「音を観る」の意があります。

### お払込先

(郵便局にて払込取扱票を使用して  
お払込ください)

口座記号番号：00130-1-575941

加入者名：「町づくり支援センター」

一口 5,000 円からですが、  
より多くの御寄進を願いたいと思います。

- ・通信欄には「ベトナム五行山日本寺開山」と明記ください。
- ・ご依頼には、郵便番号を含むご住所とお名前を明記ください。記載されたご住所へ銅板をお送りいたします。

### お問い合わせ

#### 【まちづくり支援センター】

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学創造理工学部石山修武研究室内

TEL: 03-3209-2278 Fax: 03-3209-8944

Email: [osm-i@ishiyama.arch.waseda.ac.jp](mailto:osm-i@ishiyama.arch.waseda.ac.jp)

(石山修武研究室 HP:

<http://ishiyama.arch.waseda.ac.jp/www/homej.html>)



梵鐘の完成イメージ



みなさんにお名前や文字をお描き頂く銅板



みなさんのお名前などをお描き頂いた銅板はベトナムへ送り、梵鐘の材料として铸込まれます。